

製品名: SIRT2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17917**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	43kDa

抗原情報

遺伝子名	SIRT2
別名	SIRT2; SIR2L; SIR2L2; NAD-dependent protein deacetylase sirtuin-2; Regulatory protein SIR2 homolog 2; SIR2-like protein 2
遺伝子 ID	22933.0
SwissProt ID	Q8IXJ6
免疫原	抗血清はヒト SIRT2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 321-370

背景

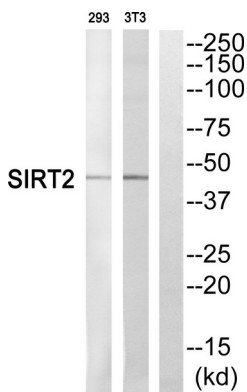
この遺伝子は、酵母 Sir2 タンパク質の相同遺伝子であるサーチュインファミリータンパク質をコードしています。サーチュインファ

ミリーのメンバーはサーチュインコアドメインを特徴とし、4つのクラスに分類されます。ヒトサーチュインの機能はまだ解明されていませんが、酵母サーチュインタンパク質はエピジェネティックな遺伝子サイレンシングを制御し、rDNAの組み換えを抑制することが知られています。研究によると、ヒトサーチュインはモノADPリボシルトランスフェラーゼ活性を持つ細胞内調節タンパク質として機能する可能性が示唆されています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、サーチュインファミリーのクラスIに分類されます。この遺伝子の選択的スプライシングにより、いくつかの転写バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2010年7月],触媒活性: NAD(+) + アセチルタンパク質 = ニコチンアミド + O-アセチルADPリボース + タンパク質,補因子: サブユニットあたり1個の亜鉛イオンと結合する。 ,発生段階: 有糸分裂中にピークに達する。有糸分裂後、26Sプロテアソームによって分解されると考えられる。 ,酵素調節: サーチノール、A3、およびM15小分子によって阻害される。ニコチンアミドによって阻害される。 ,機能: NAD依存性脱アセチル化酵素。α-チューブリンのLys-40を脱アセチル化する。細胞周期における有糸分裂終了の制御に関与しており、おそらく細胞骨格の制御を介している。試験管内 (in vitro) ではヒストンを脱アセチル化する能力がある程度あるものの、生体内ではそうではない。 ,PTM: 細胞周期のG2/M期遷移時にリン酸化される。 ,類似性: サーチュインファミリーに属する。 ,類似性: サーチュイン型脱アセチル化酵素ドメインを1つ含む。 ,細胞内局在: 微小管と共存する。 ,サブユニット: HDAC6と相互作用することから、これらのタンパク質は細胞骨格を脱アセチル化する大きな複合体に属していることが示唆される。 ,組織特異性: 広く発現している。心臓、脳、骨格筋で高い発現を示す一方、胎盤と肺では弱い発現を示す。多くの神経膠腫で発現が低下していることから、ヒト神経膠腫において微小管ネットワークの制御を介して腫瘍抑制遺伝子として作用している可能性が示唆される。 ,

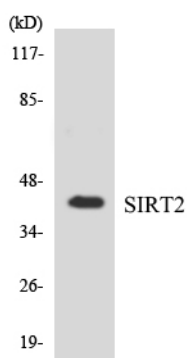
研究分野

タンパク質アセチル化

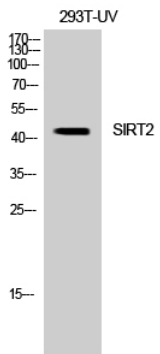
画像データ



SIRT2抗体のウェスタンブロット解析。右レーンにはSIRT2ペプチドでブロックされている。



SIRT2抗体を使用したRAW264.7細胞の溶解物のウェスタンブロット解析。



SIRT2 ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析